クロアチア語の可能形式 moći の意味・用法と特徴

―『見習い職人フラピッチの旅』の翻訳分析から―

村田　恵美（ザグレブ大学）

【要約】

本研究は、クロアチア語で書かれた小説の原作とその日本語翻訳版を比較することで、クロアチア語の可能形式 moći の特徴と日本語との違いを明らかにすることを目的としている。分析の結果、本作品で用いられたクロアチア語の可能形式には能力や状況可能を表す他にも、許可や皮肉を表す意味・用法があった。また日本語への翻訳時には、可能形式を使用した表現と使用しなかった表現があった。日本語への翻訳時に可能形式を使用しなった表現は、クロアチア母語話者の日本語学習者にとって習得が難しいことが考えられるため、どのような表現が可能形式を用いずに翻訳がされているのかを調査を行ったところ、自動詞やモダリティ表現に訳された表現が多いことがわかった。

１．はじめに

本稿はクロアチア語の可能形式に着目し、クロアチア語で執筆された小説とその日本語翻訳版を比較することで、クロアチア語の可能形式が表現する文法的特徴と、日本語のとの違いを明らかにすることを目的としている。

同じスラブ語派に属するロシア語の可能形式 мочь に着目した研究に村越（2015）があり、日本語でクロアチア語の文法についてまとめたものに三谷（1997）があるが、小説内に見られるクロアチア語の可能形式 moći の意味・用法と日本語の翻訳について分析した研究はまだない。クロアチア語の可能表現は、日本語の可能表現のように特別な項目としてクロアチア語の文法書において取り上げてないものの、クロアチア語の moći は、他の動詞と一緒に使いモダリティを表すと説明されている（Silić & Pranjković, 2005）。またクロアチアで出版された辞書（Anić, 2003 ; Bujas, 2005 ; Jojić,2015）やクロアチアの大学の情報機関と出版社が一緒に作成し、2006 年に一般公開したオンライン辞書 Hrvatski jezični portal などでは、能力があること、条件や状況的に可能であること、また許可や可能性、そして皮肉や権力があることなどを表現できると説明している。また、英語の可能表現と使われ方が似ていることや（Knežević & Brdar, 2011)、近年、moći は同意を表現することも指摘されている（Đurđević, 2020 ; Matovac, 2022）。一方、日本語の可能表現はヴォイスに分類されることが多い。動詞を「～れる」「～られる」の形に活用させたり、する動詞を「できる」に活用させたり、「かねる」「（し）うる」「（し）える」を使用することで、能力や状況的に可能であることを示す（寺村 2011、日本語記述文法研究会 2020）。同じ可能表現であっても、クロアチア語ではモダリティに分類され、日本語ではヴォイスに分類されるなど、異なる文法カテゴリーに属することは、クロアチア語母語話者が日本語を学ぶ際に影響を与える可能性がある。そこで本稿では、クロアチア語の小説とその日本語翻訳版に現れる可能形式を直接比較することで、クロアチア語の可能形式が持つ意味・用法の特徴と、日本語の可能表現との相違点を明らかにすることを目的としている。

なお、本稿で用いる「可能形式」はクロアチア語では moći を対象とし、日本語は日本語記述文法研

究会（2020）が提示するⅠ型動詞に「-e-ru」を接続したもの、Ⅱ型動詞に「-rare-ru」を接続したもの、と「できる」「ことができる」「（し）かねる」「（し）うる」「（し）える」を対象とする。また上記の可能形式を用いた文を「可能表現」と呼ぶ。

２．先行研究

２．１ クロアチア語の可能表現

クロアチア語の可能表現は moći の後に動詞の不定詞を接続して表現する。このとき、時制や人称によって moći と動詞の不定詞の形が変化する。

例えば現在形（表 1）では、1 人称単数のとき moći は mogu となり、「食べる」を意味する動詞の不定詞である jesti が接続すると「Ja mogu jesti…」（私は…を食べられる）となる。同様に、主語が 2 人称単数の場合、moći は možeš に変化し（1）（2）のような文章を作る。

（1）Mogu jesti svaku vrstu ribe.　私はどんな種類の魚でも食べられます。（三谷 1997）

（2）Ne možeš sutra ići na izlet?　君はあした遠足にいけないの？（三谷 1997）

さらに、3 人称単数の場合 moći は može になり、1 人称複数であれば možemo、2 人称複数であれば možete、3 人称複数であれば mogu に変化する。

表 1：moći の現在形

単数	1 人称	2 人称	3 人称
	Ja mogu（男性・女性）	Ti možeš（男性・女性）	On može（男性） Ona može（女性） Ono može（中性）
複数	1 人称	2 人称	3 人称
	Mi možemo（男性・女性）	Vi možete（男性・女性）	Oni mogu(男性) One mogu(女性) Ona mogu（中性）

また過去形（表 2）は、英語の be 動詞にあたる biti と moći の完了分詞で（3）のような過去の文を作る。

（3）Ja sam mogao jest svaku vrst ribe.
私はどんな種類の魚でも食べられた。

表 2：moći の過去形

単数	1 人称	2 人称	3 人称
	Ja sam mogao（男性） Ja sam mogla（女性）	Ti si mogao（男性） Ti si mogla （女性）	On je mogao（男性） Ona je mogla（女性） Ono je moglo（中性）
複数	1 人称	2 人称	3 人称
	Mi smo mogli（男性） Mi smo mogle（女性）	Vi ste mogli（男性） Vi ste mogle（女性）	Oni su mogli（男性） One su mogle（女性） Ona su mogla（中性）

biti と moći の完了分詞は、1 人称単数の場 mu 合、bit は sam に変化し、moći は主語が男性の場合は mogao に、女性の場合は mogla に変化する。2 人称単数の場合、bit は si に変化し、moći は主語が男性の場合は mogao に、女性の場合は mogla に変化する。3 人称単数の場合、bit は je に変化し、moći は主語が男性の場合は mogao に、女性の場合は mogla に、中性の場合は moglo に変化する。複数形の場合は、bit は、主語が 1 人称複数の場合は smo に、主語が 2 人称複数の場合は ste に、3 人称複数の場合は su に変化し、moći は主語が男性の場合は mogli に、女性の場合は mogle に、中性の場合は mogla に変化する。

さらに、英語における potential のような可能性の意味を示す形式もある（表３）。biti + moći の完了分詞 + 動詞の不定詞で（4）のような文を作り、実際には走っていないが、早く走れる可能性があることを表す。

（4）On <u>bi mogao</u> brzo trčati.　(Matovac 2022)
　　彼は早く走れる／彼は走ることができる

表 3：moći の潜在的条件文

単数	1 人称	2 人称	3 人称
	Ja bih mogao（男性） Ja bih mogla（女性）	Ti bi mogao（男性） Ti bi mogla（女性）	On bi mogao（男性） Ona bi mogla（女性） Ono bi moglo（中性）
複数	1 人称	2 人称	3 人称
	Mi bismo mogli（男性） Mi bismo mogle（女性）	Vi biste mogli（男性） Vi biste mogle（女性）	Oni bi mogli（男性） One bi mogle（女性） Ona bi mogla（中性）

このとき biti は 1 人称単数で bih、2 人称単数は bi、3 人称単数は bi、1 人称複数は bismo、2 人称複数は biste、3 人称複数は bi に変化し、可能性があることを述べる。

また、クロアチア語の moći は可能や許可そして可能性を表すと言われているが、文脈によっては、「znati（知る）」や「smjeti（許可）」と近い意味を持ったり、同意を表したりすることができる。例えば、Ja mogu voziti auto（私は車の運転ができる）は、運転の知識があるという意味であれば、Ja znam voziti auto (私は車の運転の仕方を知っている)に近くなる。また、車の運転を認められているという意味であれば、Ja smijem voziti auto (車の運転を許可されている)と近くなる（Silić & Pranjković, 2005）。そして（5）のように人称や人数を反映せず Može のまま使用すると、OK の意味など可能以外の表現になる（Matovac 2022）。

（5）A:Želiš li ići na kavu?　「コーヒーに行かない？（お茶しに行かない？）」
　　B:<u>Može</u>　「いいよ。/OK」　（Matovac 2022）

これまでザグレブ大学でクロアチア語を学ぶ外国人のための教科書でクロアチア語の moći は可能性を表すと説明されていた（Čilaš Mikulić et al, 2006）が、近年クロアチア語の可能表現の多義性についても指摘されるようになり（Đurđević, 2020 ; Matovac, 2022）、教科書もクロアチア語の moći が可能を表すだけではなく、人称によって変化しない može を使用すると「OK」の意味になることが記載されるようになった（Čilaš Mikulić et al, 2022）。

しかし、例えば（6）のように、クロアチア語母語話者の日本語学習者が「お茶を飲む」と日本語で聞かれた時、「できるよ」と答えることも考えられる。

（6）A:Hoćeš piti čaj?　「（お茶を作っているけど）あなたも、お茶飲む？」
　　B:<u>Može</u>　　「OK?/できるよ」

そこで、クロアチア語の moći に着目し、クロアチアで出版された小説とその日本語翻訳版を比較することで、moći の用法と、クロアチア母語話者が日本語を学習する際に困難が生じるであろう表現について考察を行う。

２．２ 日本語の可能表現

日本語の可能表現は一般的にヴォイスに分類されることが多い。ヴォイスは事態の成立に関わる人や物を表す名詞がどのような形態的なタイプの動詞や格と共に表現されるかに関わる文法項目である（日本語文法研究会 2020）。可能形式は、動詞の語幹に-e または-rare をつけた形や、動詞の「～する」の形を変えた「できる」の形（寺村 2011）とされるほか、さらに「ことができる」「（し）かねる」「（し）うる」「（し）える」も可能形式に含む考えもある（日本語記述文法研究会 2020）。

可能表現が持つ意味・用法の分類は研究者によって様々で、寺村（2011）は（7）のような、X にとって（Y に対して）V－することが可能である。または X が V－する能力を持っているという文を能動的可能表現と呼び、（8）のような文を受動的可能表現と呼ぶ。

（7）コノ魚ハ木ニノボレル（寺村：2011）
（8）コノ魚ハ食ベラレル　（寺村：2011）

日本語記述文法研究会（2020）は、可能表現を可能構文と呼び、動作の実現が可能・不可能である条件や理由によって大きく能力可能と状況可能に分け、能動主体の能力に理由があるものは能動可能になり、能動主体の能力以外に理由があるものは状況可能になす。また動作の実現までを含めて言う場合は、潜在可能と実現可能に分けられると述べる。

しかし、可能表現の中心的な意味は何々をしようと思えば、その実現について妨げるものはない（寺村 2011）であるが、可能表現には能力や状況を表す表現以外にも、ある場面や文脈においては、（9）のような許可や（10）のような禁止、（11）のような謙虚、（12）のような動作遂行の見込み、（13）のような申し出、（14）のような依頼などの意味を持つ（加藤 2003、渋谷 1993）

（9）君は仕事を終えたのだから、家に帰ることができるよ。（渋谷 1993）
（10）君は仕事が終わるまで、家に帰ることができません。
（11）おかげさまで志望校に合格することができました（加藤 2003）
（12）昨日は、岡山まで行けました。でも神戸で降りて宿を探しました。（加藤 2003）
（13）コーヒー豆はひくこともできますよ。（加藤 2003）

（14）この辞書、借りられますか。（加藤 2003）

また、可能の意味を持つ自動詞は学習者にとって習得が難しいことを指摘する研究もある（楠本, 2009；セリーム, 2013）。

（15）日本語が少しわかれる（→わかる）ようになりました。<フィリピン>（楠本 2009）

その理由として、可能表現を練習する際に初級日本語教科書では、能力可能の例文を中心とした文型練習が記載されていることを指摘する（セリーム 2013）。教師が可能表現には可能の意味を持つ自動詞や能力可能以外の表現を意識しないかぎり、学習者がこうした可能表現の特徴に意識を向けることは少なく、結果として学習者の誤用につながりやすいと述べる。

２．３ 可能形式の対照研究

クロアチア語と日本語の可能形式を比較した研究は、散見のかぎり見当たらなかったが、クロアチア語と英語の可能形式を対照した研究には knežević & Brdar (2011) がある。knežević & Brdar (2011) は、避難場所についてクロアチア語で書かれた条例の中に表れるモダリティの形式と、その英語翻訳版に表れるモダリティの形式を比較し、クロアチア語と英語のモダリティは類似していることを指摘する。

日本語と英語の可能形式を対照した研究には、今泉（2018）、高橋（2011、2012a、2012b、2013）、寺村（2011）がある。今泉（2018）は英語の可能形式を日本語に訳す時、日本語ではモダリティ表現で訳すことが多いことを指摘している。

３．調査の目的と方法

３．１ 調査の目的

本調査の目的は、次の 2 つである。

【研究課題 1】クロアチア語の小説の中で使用されているクロアチア語の可能形式 moći がどのような意味・用法で使われているのか。

【研究課題 2】クロアチア語の小説の中で使用されているクロアチア語の可能形式 moći が、日本語ではどのように翻訳されたのか。

３．２ 調査資料と分析対象

本研究で使用した調査資料は、クロアチア語の小説『Čudnovate Zgode Šegrta Hlapića』と、それを日本語に翻訳した『見習い職人フラピッチの旅』である。クロアチア語の小説『Čudnovate Zgode Šegrta Hlapića』（以後、Hlapića）は靴職人になるために靴屋で住み込み見習いをしている少年 Hlapić が、親方に理不尽なことで怒られ、そのため親方のもとを離れるため旅に出るという話である。1913 年に出版されて以来、現在でもクロアチアの人々に高い評価を受ける小説で、クロアチアの学校で必読図書の一つに選ばれている。クロアチア国内で何度も出版されており、本研究で用いたクロアチア語版は、クロアチア語の出版社と大手出版社が 2014 年に出版した版を使用した。クロアチア語以外の言語にも翻訳されおり、本研究で使用した日本語版は 2015 年に『見習い職人フラピッチの旅』（以後、フラピッチ）として出版された本である。

３．３ 分析の方法

分析資料として、クロアチア語の小説内で使われている可能形式を書き写して使用した。手順は以

下の通りである。

①クロアチア語の小説の中から可能形式が含まれる文を特定し、その文がどのような意味・用法が使われているか調査した。
②クロアチア語の小説において可能形式を含まれる文が、日本語翻訳版の小説ではどのような表現で翻訳されているのかを比較した。この時、クロアチア語では可能形式を使っている文が日本語でも可能形式を使っているのか、あるいは可能形式を使わずに翻訳されているのかを特定した。
③②のクロアチア語から日本語への翻訳時に言い換え・削除されていた要素の分類には河原（2011）の字幕翻訳のストラテジーの分析方法にもとづいて作成し、その特徴について考察を行った。

河原（2011）は英語の翻訳が、英語が日本語に翻訳された時は、「命題保持訳」「削除」「言い換え」「補足」が行われると述べる（表 4）。

表 4　河原（2011）字幕翻訳のストラテジー

①命題保持訳	原文と字幕翻訳を訳出単語ごとにパラレルに並べ、命題（ないし項）がそのまま保持されている部分。
②削除	原文にあり翻訳にない箇所
③言い換え	原文が何らかの形で別の日本語表現に言い換えられている箇所
④補足	原文にはなく、翻訳文にのみ現れている補足的な表現

４．分析の結果

４．１ クロアチア語の小説の中で使われていた moći の意味・用法

クロアチア語の小説の中で使われていた moći は、全部で 87 個あった。この時（16）のような状況可能が一番多く、つぎに（17）のような能力可能、（18）のような可能性が続いた。そして（19）のような許可や、（20）のような皮肉の意味を表していることもあった。（表 5）

表 5　moći の意味・用法の割合

状況可能	40（46%）
能力可能	23（26.4%）
可能性	21（24.1%）
許可	2（2.3%）
皮肉	1（1.1%）

（16）A da se i Bundaš izgubio, zaista bi i Hlapić plakao! Ali Hlapić nije mogao sad plakati, jer je svoj rubac posudio Marku. (Hlapić p.36)
でもハンカチをマルコに貸していたので、フラピッチはいま、泣くことができません。（フラピッチ　p.30）

（17）Psi ne mogu nikada ništa nova pomisliti nego misle samo ono, što je već više puta bilo. (Hlapić p.130)
犬というのは、新しい物事を想像することはできず、これまで何度もあったことだけ

を考えるものなのです。（フラピッチ　p.156）

（18）već je bio prošao toliko ulica, da ga majstor Mrkonja više ne bi mogao naći. (Hlapić p.29)
ムルコニャ親方にもう見つかることがないように、なん本もの道をさらに遠くへ行きました。
（フラピッチ　p.19）

（19）"Možete ostati", reče mu čovjek.　(Hlapić p.45)
「いてもいいさ」と男はいいます。（フラピッチ　p.42）

（20）"A ti kad narasteš, možeš otići s tom istom mantijom u biele faratre. (Hlapić p.78)
おまえは大きくなっても、その修道服を着て修道院に行けるよ。（フラピッチ　p.79）

４．２ クロアチア語の可能形式に対応する日本語の表現形式

つぎに、クロアチア語で moći が用いられている文節に対応する日本語の文節で表現形式の種類と用例数をまとめた（表 6）。

表 6　moći に対応する日本語の表現形式

	表現形式	用例数
える 8 件	行ける	5
	隠せる	1
	なれる	1
	稼げる	1
られる 6 件	信じられる	2
	いられる	1
	食べられる	1
	見られる	1
	寝られる	1
できる 14 件	できる	10
	できるだけ	2
	できるかぎり	1
	できるはずがない	1
ことができる 13 件	ことができる	11
	ことができたら	1
	ことなどできない	1

	表現形式	用例数
言い換え 39 件	見える	6
	わかる	5
	かもしれない	4
	見つかる	2
	～てしまう	2
	わけにはいかない	2
	～たら	1
	ベッドを作る	1
	やっとのことで	1
	誰なのか	1
	目をさまさせる	1
	おこる	1
	ことはない	1
	～てくれる	1
	～てもいい	1
	～ばならない	1
	～てもおかしくない	1
	いやだ	1
	可能性がある	1
	感じる	1
	起こる	1
	考えつく	1
	落ちたりしない	1
	～てくる	1
削除 7 件		7

クロアチア語の moći に対応する日本語の表現形式は次の特徴が見られた。まず本作品は、文芸作品であるため逐次翻訳が行われているわけではなく、物語の内容に合わせ意訳も行われていることが考えられるが、日本語の可能形式に着目をして分析を行ったところ、約半数の割合でクロアチア語の moći が用いられた文節は、日本語の可能形式を使わずに言い換えや削除が行われていた。このクロアチア語の moći が、日本語の可能形式を使わずに言い換えや削除などが行われた時は、次の 2 つの特徴が見られた。

まず、「見える」や「見つかる」、「わかる」などの自動詞に訳されることが多かった。クロアチア語の moći が「見つける」を意味する naći と接続する時、日本語では「見つかる」と訳され（21）、moći が思考動詞や判断・認識動詞と接続するとき、日本語では可能形式を使わずに「わかる」と訳されていた（22）。

（21）već je bio prošao toliko ulica, da ga majstor Mrkonja više ne bi mogao naći.（Hlapić p.29）
ムルコニャ親方にもう見つかることがないように、なん本もの道をさらに遠くへ行きました。（フラピッチ p.19）

（22）"Ali prepoznati bismo ju uvijek mogli."　（Hlapić p.139）
でも、いつでもその子だってことはわかるわ。（フラピッチ p.168）

次に、「かもしれない」「わけにはいかない」などのモダリティに訳されることも多かった。クロアチア語では、bi+ moći で可能性の意味を表している時、日本語では「～かもしれない」と訳されていることが多く（23）、常識から考えるとそのようなことは行動できないという気持ちをクロアチア語では否定形と moći を接続して表わしている時、日本語では「わけにはいかない」と訳されていた（24）。

（23）"Zato, jer bi ovdje mogao biti majstor Mrkonja. "（Hlapić p.96）
ここにムルコニャ親方がいるかもしれないじゃないか。（フラピッチ p.107）

（24）Gitu nije mogao ostaviti samu u noći na putu（Hlapić p.120）
ギタをひとり夜の道において行くわけにはいかないし、（フラピッチ p.141）

５．考察

以上、クロアチア語の小説を日本語ではどのように訳しているのか比較分析を行った。これまでの分析結果をふまえてわかったことを、研究課題に基づき以下にまとめる。

まず【研究課題 1】クロアチア語の小説の中で使用されたクロアチア語の可能形式 moći がどのような意味・用法で使われているのかという点では、本作品の中で moći は、能力可能や状況可能、可能性や許可、そして皮肉の意味を表す意味・用法が見られた。全体的には状況可能を意味している表現が多かった。しかし、子供が市場の中で寝る場所を探している時、昼間一緒に働いた大人が子供たちに向かって市場の好きなところで寝られると伝えた表現が、状況可能なのか、それとも許可を表しているのか判断が難しい箇所もあった。（25）

（25）Možete spavati gdje hoćete. (Hlapić p.103)
どこでも好きなところに寝られるよ。（フラピッチ　p.120）

同じスラブ語派に属するロシア語の可能形式 мочь について分析を行った村越（2015）は、状況的可能性は話し手の権力や法律など社会的力が関与すると許可の意味に発展すること、そして時には意味

が重なり合うため、許可は状況的可能性の下位概念として位置付けるべきだという考えがあることを述べる。クロアチア語もロシア語と同じスラブ語派であるため可能表現の意味・用法が類似していることや、大人が子供に発した言葉であることなどから、(25) の表現は状況可能が許可の意味に発展したことが考えられる。

次に【研究課題 2】クロアチア語の小説の中で使用されているクロアチア語の可能形式 moći が、日本語ではどのように翻訳されたのかという点においては、日本語の可能形式を使って翻訳される文もあったや、可能形式を使わずに他の表現で翻訳されたり削除されたりした文が半数以上あった。本作品は小説であるため翻訳上逐次翻訳がされていないことも影響していることが考えられるが、他の言葉に言い換えられた表現には「自動詞」や「モダリティ表現」に翻訳がおこなわれることが多く見られた。

「自動詞」に翻訳された文は、「見える」や「見つかる」、「わかる」などに訳されていた。「見える」は否定形の「見えない」が使われていて可能の意味を持つことが考えられる。またクロアチア語の moći が naći「見つける」と接続する時は「見つけられる」ではなく「見つかる」と訳され、moći が思考動詞や判断・認識動詞と接続するときは、日本語では「わかる」と訳していた。可能の意味を持つ自動詞は学習者にとって習得が難しいことがこれまでの研究からも指摘されている（楠本, 2009 ; セリーム, 2013）ため、クロアチア語の日本語学習者にとっても習得が難しいことが考えられる。

クロアチア語の moći が、可能性を述べる時日本語では「～かもしれない」に翻訳されて、常識的に考えて行動ができないと表現する時は「～わけにはいかない」に訳されるなど、モダリティ表現に翻訳されていることも多かった。これはクロアチア語の可能形式 moći がモダリティに分類されていることが、日本語に反映したことが考えられる。英語と日本語の可能形式を分析した今泉（2018）が示す結果が、クロアチア語にも見られることがわかった。

以上のようなクロアチア語では可能形式の moći を使って表現しているが、日本語では可能形式を使わずに「自動詞」や「モダリティ」を使って翻訳した表現は、クロアチア語母語話者の日本語学習者にとって習得が難しいことが考えられる。

６．今後の課題

今回は、クロアチアで出版されたクロアチア語の小説とその日本語翻訳版を用いて、小説の中で使われているクロアチア語の可能形式 moći の意味・用法と、日本語への翻訳時に見られる特徴について分析を行った。分析の結果、本作品の中で使用されたクロアチア語の可能形式の意味・用法と、クロアチア語では可能形式を使っているが、日本語に翻訳をする際には可能形式を用いずに翻訳された表現があることがわかった。

本調査では、クロアチア語の可能形式 moći は状況可能の意味が許可を表すことも考えられること、日本語への翻訳時には可能形式を使わずに「自動詞」や「モダリティ」に訳していることも多いことがわかった。今後もクロアチア語と日本語の翻訳作品にもあたり、日本語とクロアチア語の可能形式について調査や分析を重ね知見を深めたい。

参考資料

ブルリッチ＝マジュラニッチ, イヴァナ（2015）『見習い職人フラピッチの旅』山本　郁子（訳）．小峰書店

Brlić-Mažuranić, I. (2014) *Čudnovate zgode šegrta Hrapića.* Matica Hrvatska.

Cilaš Mkulić, M et.al. (2006) *Hrvatski za početnike 1 : udžbenik hrvatskog jezika kao drugog i stranog jezika.*

Cilaš Mkulić, M et.al. (2022) *Razgovarajte s nama! : udžbenik hrvatskog jezika za razine A1 A2. Hrvatska sveučilišna naklada.*

Hrvatski jezični portal < https://hjp.znanje.hr/index.php?show=main> (2024 年 3 月 20 日参照)

参考文献

今泉智子（2018）「小説の対訳データから見る日英語可能表現の比較」『国際広報メディア・観光学ジャーナル』27, 33-51.

加藤重広（2003）「語用論的に見た「可能」の意味」『富山大学人文学部紀要』38, 87-98.

楠本徹也（2009）「無標可能表現に関する一考察」『東京外国語大学論集』79, pp.65-85. 東京外国語大学.

河原清志（2011）「翻訳とは何か―研究としての翻訳（その 12）」『翻訳通信』111, 6-15. https://www.honyaku-tsushin.net/bn/201108.pdf（2024 年 1 月 31 日参照）.

渋谷勝己（1993）「日本語可能表現の諸相と発展」大阪大学文学部博士論文.

セリーム，パンニー（2013）「「自動詞の可能形」の誤用の要因に関する考察－初級日本語教科書の分析から」『日本語・日本文化研究』23, pp. 118-128.

高橋正（2011）「モダリティ表現の日英語対照研究（3）日本語の能力・可能表現と CAN／COULD の対応『英語英文学研究』36(1), 1-30.

高橋正（2012a）「モダリティ表現の日英語対照研究（4）知覚動詞と CAN／COULD」『英語英文学研究』36（2）, 1-32.

高橋正(2012b)「モダリティ表現の日英語対照研究(5)日本語で能力・可能表現のない場合の CAN／COULD の出現とその分析」『英語英文学研究』37(1), 17-40.

高橋正（2013）「モダリティ表現の日英語対照研究（6）可能を表す can/could はどのような日本語表現と対応しているか？」『英語英文学研究』37（2）, 19-42.

寺村秀夫（2011）『シンタスクと意味』1, くろしお出版

三谷恵子（1997）『クロアチア語ハンドブック』大学書林

村越律子（2015）「мочь の意味と用法」『ロシア語ロシア文学研究 47』日本ロシア語文学会, 219- 237.

日本語文法研究会編（2020）『現代日本語文法 2　第 3 部格と構文　第 4 部ヴォイス』くろしお出版

Anić, V. (2003) *Veliki Rječnik Hrvatskog Jezika*, Novi Liber.

Bujas, Ž. (2001) *Veliki Hrvatsko – Engleski Rječnik,* Četvrto Izdanje, Nakladni zavod globus.

Đurđević, R. (2020) Može se o modalni glagolima u hrvatskome s naglraskom na glagolu moći, *HINIZ Hrvatski Inojezičini Croatian L2,* 23-40.

Jojić, L. (2015) *Veliki Rječnik Hrvatskoga standardnog jezika.* Školska knjiga.

Knežević, B., Brdar, I. (2011) *Modal and modality in translation: a case study based approach*. Jezikoslovlje 12.2, 117-145.

Matovac, D. (2022) *Basic Croatian Grammar For Croatian Language Learners*, Croatian University Press.

Silić, J., Pranjković, I. (2005) *Gramatika hrvatskoga jezika za gimnazije i visoka učilišta*, Školska knjiga.